

令和7年産 果樹情報（第4号）

令和7年7月11日
宮城県大河原農業改良普及センター

- ・各種重要病害の病斑枝、葉、果実は徹底して除去し園外で処分しましょう。
- ・支柱立て、枝つり、修正摘果等の適期作業を心がけましょう

1 気象経過

6月の気温は、平年より2.9℃高く推移し、降水量は平年の半分で推移しました。

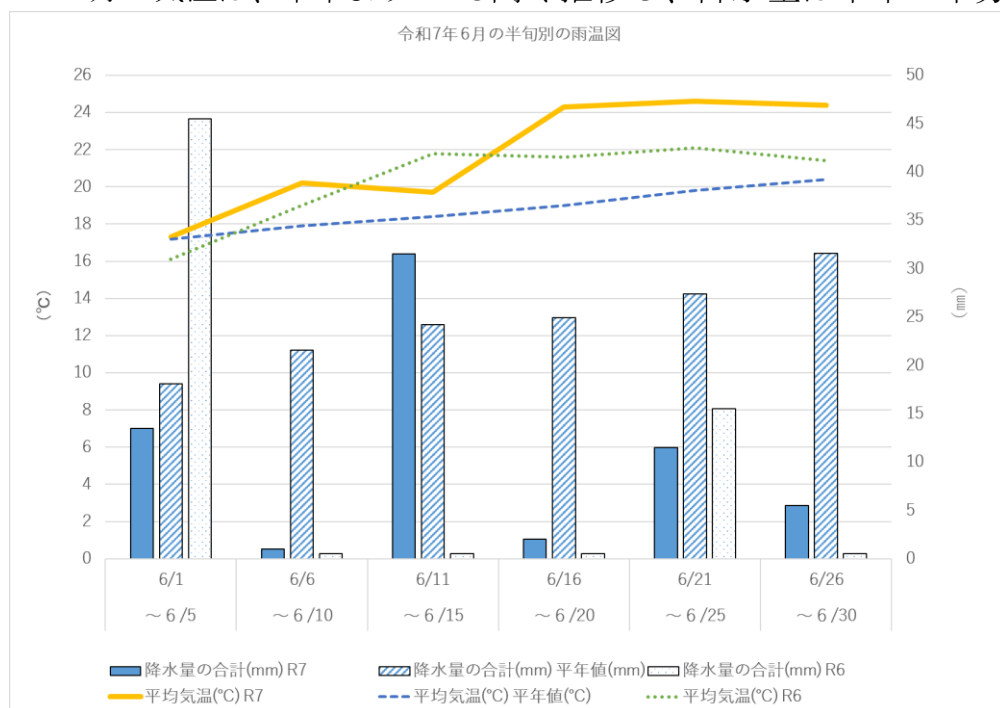


図1 アメダス蔵王地点の半旬別合計降水量及び気温の経過
(棒グラフ：平均降水量、折れ線グラフ：平均気温)

2 果樹作況調査ほの果実肥大状況

肥大状況は良好で、いずれの樹種も平年を上回っています。

表1 もも（7/5 調査）とりんご・なし（7/10 調査）の果実肥大状況（単位：mm）

樹 種	品 種	調査地点	令和7年		令和6年		平年比（%）	
			タテ	ヨコ	タテ	ヨコ	タテ	ヨコ
りんご	ふ じ	白石・郡山	48.3	52.3	48.4	53.9	100	102
な し	幸 水	角田・豊室	41.8	51.8	50	52.5	107	114
		蔵王・高木	38.0	44.0	40.2	47.4	106	107
	豊 水	角田・豊室	44.8	50.0	48.1	51.6	115	118
		蔵王・高木	38.0	41.9	40.5	43.2	108	110
も も	あかつき	丸森・舘矢間	55.8	56.9	63.6	64.3	121	124

3 宮城県内の果樹における病害虫の発生状況

宮城県病害虫防除所発行の「発生予報第5号（概要版）」、「注意報第1号」によれば県内の病害虫の発生状況は以下のとおりです。（令和7年7月2日発行）

表2 県内の病害虫の発生状況

品目	病害虫名	発生予報	病害虫名	発生予報
りんご	褐斑病	発生量：多	斑点落葉病	発生量：やや多
	アブラムシ類	発生量：やや多	キンモンホソガ	発生量：多
	ハダニ類	発生量：平年並	—	—
なし	黒星病	発生量：平年並	アブラムシ類	発生量：やや多
	ハダニ類	発生量：平年並	—	—
果樹共通	果樹カメムシ類	発生量：多	—	—

4 樹種ごとの管理

■りんご

管理作業のポイント

- ・修正摘果では、着果量が多い場合は、果そう葉が少ない果実、長果枝先端の果実を摘果します。
- ・樹冠内部の受光体制の改善や防除効果の向上のため、支柱立て、枝吊りを実施しましょう。
- ・徒長枝の切除は果実や骨格枝背面の日焼けに注意しながら実施しましょう。

病害虫防除のポイント

- ・斑点落葉病、褐斑病、輪紋病は気温 20℃前後で降雨が続くと急増する傾向があります。発病した徒長枝は取り除き、園外に持ち出し処分してください。
- ・除草作業と殺ダニ剤の散布日が近い場合は、除草作業の数日後に殺ダニ剤を散布します。
- ・モモシンクイガは管内では7月～9月まで発生が続くので、定期的に防除します。産卵場所となりやすい「がくあ部（果頂部）」を観察して産卵期を見極め、適期（産卵盛期）に防除してください。

■日本なし

管理作業のポイント

- ・「幸水」の摘果は、裂果収束後（満開後90 日ごろ）に実施しましょう。
- ・「豊水」の摘果は、着果量の見直しと軸折れ果を確認しながら実施しましょう。

病害虫防除のポイント

- ・黒星病の病斑のある葉や果実は徹底して取り除き、園外に持ち出し処分してください。
- ・「幸水」は満開後 50～90 日ごろに本病に対する果実の感受性が高まります。果実での発病が見られる園地では、果実への感染を防ぐ効果が高い薬剤を使用しましょう。

■もも

管理作業のポイント

- ・支柱立て、枝つり、葉摘み、反射シートの展張等の収穫前管理は計画的に行いましょう。

病害防除のポイント

- ・せん孔細菌病のり病部は二次伝染源となるので、見つけ次第せん除し、園外に処分します。収穫後の9月上旬頃から2週間間隔で2回、発生が多い場合は3回防除を実施します。

5 高温対策について

- 病害虫の早期発生が懸念されるため、園内での発生状況や病害虫発生予察情報等に留意し、適切な防除に努め、罹病部位の除去等を徹底する。
- 草生園では、草生の刈り取り回数を増やし（草丈15～20cmを目安）、樹と草との水分競合と蒸散を防ぎ、刈り取った草は樹冠下に敷草する。
- 不要な徒長枝は切除する一方、主枝や垂主枝の背面から発生した細めの枝などは適宜残し、直射日光が当たらないようにする。また、各種資材による遮光や白塗剤の塗布など日焼け防止対策を講じる。さらに、着果過多の場合は、小玉果や障害果を中心に修正摘果を実施して適正着果に努める。
- 病害虫防除では、農薬の使用基準を順守し、薬害リスクの高い日中の高温時の散布を避ける。
- ハダニ類の発生には特に注視し、発生初期の防除を徹底する。
- 土壌条件によって異なるが、7日程度無降雨状態が続いた場合、20mm（20 t /10a）程度を目安にかん水する。
- りんごでは、マルバカイドウを補助根として使用していないM.26やM.9が台木で、穂品種が「つがる」、「ジョナゴールド」、「王林」などの場合は、乾燥の影響を特に強く受け、樹勢が極端に低下する場合があるので、かん水設備がない場合でもスピードスプレーや等で水を運搬してかん水することが望ましい。
- 成熟期の果実の着色不良に対して、りんごでは適切な栽培管理による樹冠内環境の改善や反射シートの活用を行う。ただし、りんごでの反射シートの活用は、日焼け果の発生を助長することがあるので注意する。
- 果実の着色不良で過熟とならないよう果実の品質（糖度や硬度）や食味等を考慮して適期収穫に努める。

（令和7年5月22日 宮城県農政部農業振興課 高温に対する農作物等の技術対策情報）